

私の生きる道 Beautiful Life

会社員から人事コンサルタント会社経営者に転身。
いくつもの仕事をこなし、
休むことなく頑張り続ける松下さん。
そのパワーが生まれる秘密は、
波乱に富んだ軌跡が明かしてくれた。

Vol.11
会社経営者・松下直子さん



PROFILE
1994年、大手食品メーカーに入社。新規開拓の営業職、報道担当の広報職、人事事務職を歴任。2004年独立。社会保険労務士として顧問先の指導にあたる傍ら、学習教室経営、大学講師、派遣講師として幅広く人材育成に携わる。「株式会社オフィスあん」代表取締役、「社労士オフィスあん」代表、「公文式 泉ヶ丘教室」主宰。

松下直子の人事今昔物語!
～日本古代の人事から、現在の人事を読み解く～
1300年前から人は同じ悩みを抱えていた! 歴史研究者でもある松下さんがユニークな視点で語る人事の話。
<http://www.net-eduket.jp/colum/matsushita/no3.html>

写真： 合田慎二

あなたは、そのままでもいい。自分を認めることからすべてが始まる。

「仕事がひとつしかできないとしたら、学習教室の仕事を選びます」と微笑む松下さんが、教え子に伝え続けるのは、自分が存在すること自体に価値があるということ。それが分かると子どもたちは驚くほど伸びるという。「そのための第一歩は、まず自分を好きになることです」。

今彼女は、社会人セミナーの講師として全国を飛び回り、学習教室を主宰、大学講師を務め、さらに労務顧問もこなしている。「帰宅後や週末も社会人セミナーのためのレジメ作成や勉強があるので、最近ベッドでもとくに寝ていないですね」。それでも走り続けるのは、家族への想いに加え、教室の子どもたちやお客様が「私の仕事を必要としてくれるから」だ



という。それがなぜ、これほどのパワーを与えているのかは、彼女の壮絶な軌跡が教えてくれた。
小学生の頃父親が事業に失敗、一家で日本中を転々と移り住む生活に追われ、やつれ果てた両親に笑顔はなく、当時、極度の虚弱体質だった彼女が入退院を繰り返

すことで家計はさらに悪化していく。「私は生まれてこないほうが良かったのに、と思いました。自分で自分を否定する毎日が10年以上も続き、ようやく彼女の人生に光が射したのは、大学時代。後に夫となる男性と出会った時だった。「彼が私を丸ごと受け止め、必要としてくれたんです。救われる想いでした」。その後、大学で研究を続ける道を選択した彼の生活を支えるため、大手食品メーカーに就職を決める。そして結婚、子どもにも恵まれた。「家族にいいいものを食べさせて、いい暮らしをさせたいと、10年間無我夢中で働きました」。トップクラスの営業成績を収め、社内初の広報ウーマン、人事ウーマンにも抜擢されるといふ快挙を遂げる。

やがて夫が大学の助手に就任。安定した収入を得るようになった夫の前に、彼女は自分の存在意義を見失ってしまう。「私がいなくても家族はもう大丈夫なんだ、と思うと、これから何のために生きていけばいいのか分からなくなってしまう。そこで、自分が本当にやりたいことは何なのかを、立ち止まって考えてみたら、出てきた答えが、人の育成。だったんです」。一度組織を飛び出して、それをとことん追及してみようと考えた松下さんは、退職を決意。夫の助手の任期が切れる3年後をタイムリミットに、会社を軌道に乗せることを誓い、見



社会人セミナーは黄色、学習教室はオレンジ、勉強は水色と、マーカーで塗り分けられてぎっしり予定で埋まったスケジュール帳。

事その目標を達成した。「何かに挑戦したければ、自分の信じるままに進めばいいんです」と語る彼女。「まずは、そのままの自分を好きになってほしい。そこから何もかも始まるのですから」。悩みながらも、感じるままに生きてきた松下さんの、限りなく優しいメッセージが心に響いた。